

# 豪雨時における地域の取り組み —福岡県筑紫郡那珂川町の事例—

福岡県筑紫郡那珂川町東隈

区長 入江 重寧

那珂川町の位置



那珂川町

那珂川町東隈位置図



(Yahoo, Japan 地図に基づく)

## 東隈区の水害の歴史

### 主な水害発生

昭和28年 6月 260mm/24h

昭和38年 6月 315mm/24h

平成21年 7月 562mm (3日間の総雨量)  
集中豪雨・・・24日20時～21時で 60.0mm  
26日 5時～13時まで302.5mm

平成22年 7月 408mm (3日間の総雨量)  
集中豪雨・・・14日6時～7時まで 71.5mm

## 2009年(平成21年)7月24日(金)の状況

19:00～ 春日中学に於いて3地区合同防犯大会に出席  
福岡市南区+春日市+那珂川町

20:00～集中豪雨となるが、大会続行

20:30～パトロール隊出発後、解散

21:45～東隈区内を歩いて河川を見て回る  
那珂川の堤防に立ち監視 危険水域を越える

22:30～公民館を開けてお年寄り一人を避難させる

## 2009年7月26日(日)の状況

6:00～雨が断続的に強くなる

7:00～那珂川を見て回る

8:00～再度那珂川の各地を見て回る 町役場に東隈区が  
避難開始する旨連絡するも、守衛室しか繋がらず

9:00～公民館を開けて区役員全員と組長を招集  
那珂川の堤防に監視を立て手分けして  
区民名簿を元に避難準備連絡を入れる

10:00～避難命令の連絡 (連絡済)(避難してきた人)  
(区外に避難した人)(動けない高齢者)(未着の人)  
を書き出してチェック

11:00～堤防から溢水し始める(約150mにわたり溢水)

11:30～堤防の決壊始まる(内堤 4ヶ所、外堤 3ヶ所)  
更なる避難開始・・・那珂川町文化ホール  
(ミリカローデン那珂川)へ

12:30～水位が下がり始める



写真-1 7月26日11:00頃



写真-2 7月26日11:30頃

### その後の対応

- ① 避難解除した後、区内の被害状況を調べ、カメラに収める
- ② 写真をA4に印刷し、役場に提出報告
- ③ 麻生総理大臣及び麻生県知事視察 住民を代表し直訴
- ④ 福岡県那珂珂県土整備事務所に陳情  
(東隈区民8名 県議1名 町役場2名 水道企業団2名)
- ⑤ 東隈区の水害記録(問題点と今後の対策)を作成
- ⑥ 町に災害の検証と今後の対策を求め、  
非難マニュアル作りで終る
- ⑦ 町役場と被災地の代表5名にて県に陳情



写真-3



写真-4



写真-5

## その後の取り組み

- ① 水害の記憶を忘れないために
- ② 水害記録を残す会を立ち上げる
- ③ 公報、回覧、ポスター等で写真の提供を広く呼びかける
- ④ 4200枚余の中から420枚を選び、写真を作る
- ⑤ 文化ホールにて写真展を開催(平成22年7月 日～ 日)
- ⑥ 来場者 3500名
- ⑦ メディア各社からの取材(テレビ4社 新聞5社)

水害の記憶を風化  
させないように・・・



＝写真展の展示内容＝

- 町長から寄せられた被災写真
- 昨年の水害での浸水区域
- 町内での山崩れや冠水箇所
- 土砂災害危険箇所マップ（大雨で危険な崖下箇所、危険な深流）
- ビデオ画像の上映

会場：ミリカローデン那珂川  
(エントランスホール)  
期間：平成22年7月17日～7月31日  
時間：10時～18時

平成21年7月の  
災害から一年の写真展

主催：水害記録を残す会  
協賛：那珂川町  
九州応用地質学会



写真-6

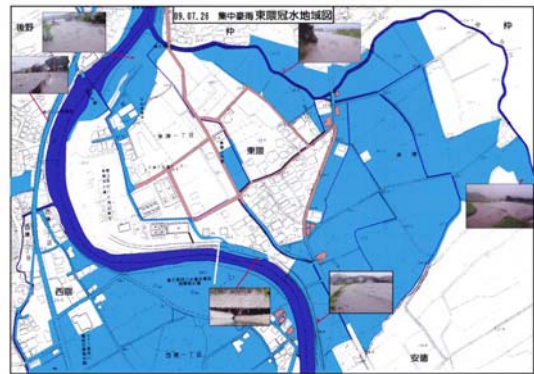


図-1

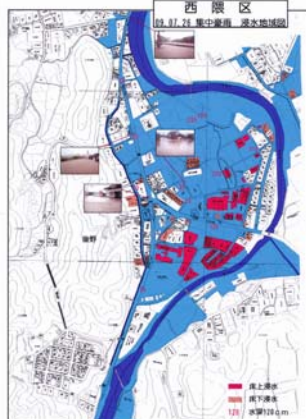


図-2

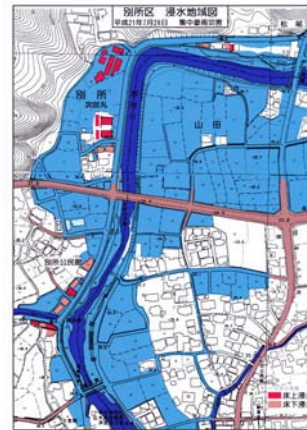


図-3

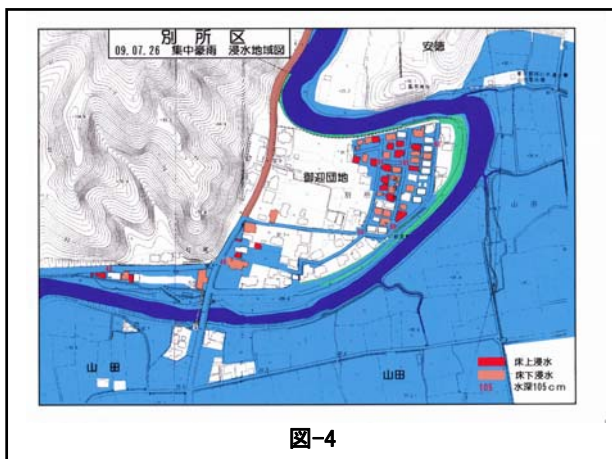


図-4

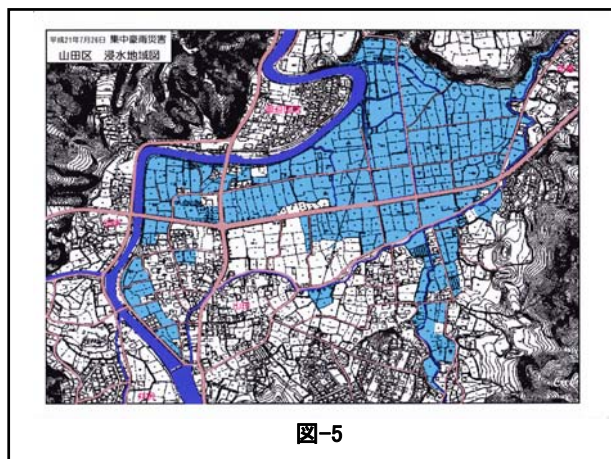


図-5

### 終わりに

- ・福岡県の事業として  
床上浸水対策特別緊急事業が136億円の予算を以って平成22年度からの5か年計画として始まる。
- ・危険箇所や避難のタイミング, 安全経路, 避難場所は地域の人が一番よく知っている。
- ・行政を頼ってはいは全てが遅れてしまう。
- ・自分の命は自分で守る。
- ・「自助+公助」の考え方……自分を守る, 家族を守る, 地域を守るために地域住民の協力と行政の迅速な支援が不可欠。